

日本遺産で 地域の活性化を図る

文化庁では地域の活性化を図るため、
今後も日本遺産を増やしていく
予定だという。

世 界遺産に対抗して創設したわけでもないが、わが国には「日本遺産」がある。世界遺産は発足してから

半世紀近い歴史があるが、日本遺産の歴史はまだ新しい。日本遺産は各地域の歴史や文化、伝統をストーリーとして文化庁が認定するものである。

世界遺産が自然や文化財などを保存・保護することが主な目的であるのに対し、日本遺産は有形・無形の文化財を活用してその魅力を国内外に発信し、地域の活性化を図るのが目的である。

2015（平成27）年の第1回公募で83件の申請があったが、文化庁では日本遺産審査委員会で審査し、その中から「近世日本の教育遺産群―学ぶ心・礼節の本源―（茨城、栃木、岡山、大分の4県）」「灯り舞う半島能登―熱狂のキリコ祭り―（石川）」「丹波篠山デカンショ節―民謡に乗せて歌い継ぐ故郷の記憶（兵庫）」など、18件を日本遺産として認定した。

日本遺産には、一つの市町村内でストーリーが展開され

て完結する「地域型」と、複数の市町村、府県にまたがってストーリーが展開される「ネットワーク型」がある。たとえば、「祈る皇女齋宮のみやこ齋宮」（三重県明和町）や、「津和野今昔〜百景図を歩く〜」（島根県津和野町）は地域型だし、「四国遍路」〜回遊型巡礼路と独自の巡礼文化〜は徳島、高知、愛媛、香川の四国4県にまたがるネットワーク型である。

日本遺産は2015年に認定された18件を皮切りに、翌16年には19件、17年には17件、18年には13件が認定されている。2019年には16件が新たに日本遺産に認定された。それまで1件も日本遺産がなかった岩手、鹿児島、沖縄の3県で日本遺産が誕生し、2020年には東京でも「高尾山」が認定されたことにより日本遺産の空白県はなくなった。

日本遺産はあくまでもストーリーとして語られるもので、単に地域の歴史や文化財を解説するだけのものではないことが求められる。

日本遺産の 都道府県別の数

（2020年現在）

文化庁は日本遺産として認定する候補となり得る地域を毎年募集しており、その中から一定の基準を満たしている地域を日本遺産に認定している。2020年には21件が新たに認定され、これで認定件数は合計104件にも上っている。日本遺産に認定されたことで知名度が向上し、観光客が増えた地域もあるが、そうでない地域も多い。そのため、2017年には「日本遺産フォローアップ委員会」が設置され、伸び悩んでいる地域の改善にも取り組んでいる。

北海道で最初の日本遺産は、「江差の5月は江戸にもない」といわれるほどニシン漁で繁栄した、民謡の江差追分で有名な、江差町だった。

